

外部評価委員 氏 名( 木村 務 )

## 外部評価の観点

A: 目標を達成した。 C: 目標を未達成である。  
B: 目標をほぼ達成した。 D: 目標にかけ離れている。

| 番号 | 重点目標                                          | 評価指標                                                                                    | 実績                       | 自己評価 | 次年度に向けて(校長)                                                                                 | 外部評価 |
|----|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1  | 多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加<br>(教務課、養成部、研修部)       | ◎令和4年度入学者 40名<br>(R2実績:30名)                                                             | 39名                      | A    | ・コロナ禍が続く高校の保護者会への説明機会が難しい中、PR動画の作成など新たな手法を検討する。<br>・新寮建設や学科編成など、農大のリニューアルに関する内容を中心にPRに努める。  | A    |
|    |                                               | ○ホームページ等による情報発信<br>ホームページの掲載年間200回<br>(養成部160回以上、研修部20回以上、<br>その他20回以上)<br>(R2実績:233回)  | 227回                     | B    | ・実習風景や学生の日常など、これまでの写真に加え動画を作成し、ホームページやツイッターに掲載する。                                           |      |
|    |                                               | ○マスコミ等を通じたPR回数 20回<br>(R2実績: 15回)                                                       | 20回                      | B    | ・今後も魅力ある活動を企画し、継続してPR活動に努める。                                                                |      |
| 2  | 実践教育による、社会に役立つ人材の育成<br>(養成部)                  | ○日本農業技術検定2級合格者(割合%)<br>2年生取得者50%以上(16/32名)<br>(R2実績:26%(6/23名))                         | 31%<br>(10名)             | C    | ・全国平均以上の1年生が23%と低調であることから、来年度に向け早い段階(第1回)で合格できるよう受験対策の強化を図る。                                | B    |
|    |                                               | ○プロジェクト学習の内容充実(2年生)<br>一定水準(70点)以上の発表80%以上<br>(R2実績:87%)                                | 100%                     | A    | ・プロジェクトの課題設定については、個々のレベルアップを図るため、より創造性をもって、経営の視点や地域とのかかわりなどを盛り込むよう誘導する。                     |      |
|    |                                               | ○農家派遣研修の評価(35点以上の割合%)<br>受入農家からの一定水準以上の評価<br>1年生:70%以上(R2実績:78%)<br>2年生:80%以上(R2実績:91%) | 1年生<br>66%<br>2年生<br>72% | C    | ・農家の評価が低かった1年生に対して、コミュニケーション力をつけるよう指導を行う。<br>・多様化する学生の状況を把握し、振興局の意見を参考に、研修制度の見直しを行う。        |      |
| 3  | 就農に向けた進路指導の強化<br>(教務課、養成部)                    | ◎就農予定者及び農業技術者(2年生)<br>80%以上(26/32名)<br>(R2実績:87%)                                       | 94%                      | A    | ・今後も進路に対する早めの意識付けと、保護者との情報共有に努め、一人でも多くの就農者および農業技術者の育成を図る。<br>・次年度は目標レベルを上げて取り組む。            | A    |
|    |                                               | ○学生のインターンシップ人数12名<br>(R2実績 9名)                                                          | 26名                      |      |                                                                                             |      |
| 4  | 安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講<br>(研修部) | ○農作業安全研修会<br>開催回数 40回以上<br>(R2実績: 40回)                                                  | 44回                      | A    | ・次年度も研修希望者が多いと予測されるため、運転免許試験場と調整し研修回数を増やす。<br>・農作業安全啓発のため、生産部会、集落営農法人をとらえ効果的かつ波及効果が高い研修を行う。 | A    |
|    |                                               | ○オープンアカデミーの内容充実<br>アンケートで満足と回答80%以上<br>(R2実績: 86%)                                      | 87%                      | B    | ・受講生アンケートや振興局担当者会、カリキュラム検討委員会で得られた意見を参考に、開催場所や時期の検討および新たなカリキュラムを作成する。                       |      |

目標の難易度:◎特に困難 ○通常 △容易に達成

○評価に関するご意見、ご助言等を記入下さい。

## 【項目評価】

(重点目標1) 入学者がほぼ数値目標に達したことは高く評価したい。コロナ禍の下でも多様な募集活動に取り組まれた成果と言える。とくに農業高校からの進学が増加したが、それは、オープンキャンパス・体験カレッジ等の高校生参加型の大学紹介による本校への理解の深まりや、高校での職員研修や出前講義等による農業高校との強いつながりの結果と言える。ホームページの情報発信200回以上を維持し、高校生や保護者への学生の活動状況の報告等の情報が十分に発信され、さらにマスコミ報道も多く、保護者の安心と誇りにつながっている。

(重点目標2) 2級取得者の割合は昨年より上昇したが、まだ31%と低位である。モチベーションが上がる7月の試験に向けて早い段階での受験準備・対策を期待したい。卒論プロジェクト学習については、全員が目標を達成し、きめ細かい指導の成果が出ている。この成果を踏まえ、外部のコンテストなどへの挑戦も期待される。農家派遣研修では、1年にはコミュニケーション不足等で低評価の学生がおり、動機づけ指導の徹底が求められる。雇用就業につながる農業法人等への派遣研修は評価できる。

(重点目標3) 雇用就農を含め、高い就農率が維持されており、学生に対する就農の意識付けや実践的教育の成果が出ている。

(重点指導4) コロナ禍の下でも各地に出向いて農作業安全講習を実施し安全意識を啓発していることは高く評価できる。また、大特免許講習はニーズが高く、地域への貢献を評価できる。オープンカレッジは、講師選定や講座内容が充実し受講者の満足度が高い。オープン講座は、オンライン利用で離島など幅広い参加が実現し地域への貢献度が高い等、高く評価できる。

## 【全体評価】

一般に入学人数が減少する傾向の中で、本校の増加は、学生募集や就職指導等に対する教職員全員の努力の成果と言える。学生募集では、体験カレッジなどの高校生参加型の学校紹介や出前講義などにより、本校の教育への理解が深まったといえよう。また、卒論プロジェクト学習では全員が目標を達成して学力の底上げが図られ、さらに、農家就農・雇用就農など本校の基本目標の達成率が極めて高いことなど、教育の質向上と高い教育成果が実現しており、それらがホームページやマスコミを通じて発信され、理解が広がったといえよう。また、農作業安全講習や大特免許講習およびオープンアカデミーなどの地域貢献の取り組みは、参加者の満足度が上がっており、地域の農業者の本校への期待と評価が高まっている。